精神科救急病棟開設

精神科救急病棟を開設して～断らない精神科医療を目指して～

当院では平成28年４月１日から精神科救急病棟を開設しています。全国でも珍しい全室個室の60床の新しい病棟です。病棟としては順調に稼働しており、当初の目的であった救急・急性期の敏感で脆弱な時期に刺激を避けて適切な休養を確保すること、その後の治療へ悪影響を与えないための人権への配慮としてプライバシーを尊重すること、部屋のやりくりを考えずに速やかに必要な入院に対処できること、などが概ね実現できていると感じています。

平成28年度は当院で年間約160日の精神科救急当番を担当しています。新潟県の精神科救急システムでは、基本はまずかかりつけ医の対応が優先で、その次に救急当番病院ということが条件です。しかし精神科救急システムの新潟県北圏域基幹病院としての役割を担うために、それ以外の日でも、また夜間だけではなく平日の急な受診、入院要請にも「可能な限り断らないで」なんとか対応しようということを病院全体の目標としました。そのための診療体制としては、月のうち、３、４日以外は常勤医が当直し、毎日の新患当番の医師を２人体制にしており、日中の受診相談は地域課の精神保健福祉士が対応しますが、夜間は主任、師長が看護当直をしていていつでも相談に応じています。夜間の電話対応はかかりつけも含めると1000件以上になるでしょう。

精神科救急病棟を開設して、以前と違った点のひとつは認知症の周辺症状による入院要請が増えたことです。すでに去年の２倍くらいになっていますが、多くは総合病院に入院中や、施設入所中に問題行動が出たりということから紹介されてきたり、かかりつけのクリニックなどからの依頼が多いようです。そのため当院では、認知症に関しては受診、入院相談の窓口担当者を決めており、さらに認知症サポート医が３ヶ月以内で退院可能な救急病棟への入院かそれ以外の病棟か、あるいは身体管理の方が優先するかを判断しています。これでだいぶやりやすくなりました。救急病棟が全個室のため、周辺症状の対応がしやすくなったのも大きいと思います。もうひとつは逆に10代の入院が増えたことも特長かと思います。これも個室対応ができて、プライバシーが守れることの利点からでしょう。

精神科救急の場合には、まず身体的に問題がないかをクリアしてから、ということが原則ですが、そこに苦慮することも多いように思えます。入院してから重篤な身体合併症が発見されたりすることも少なくありません。精神症状があったりして一般科でなかなか検査も難しいこともあるでしょう。しかし、「断らない」ことを目指しているといっても、なんでもいいというわけではなく、やはり安全でいい医療を提供するためには、これまで以上に他科との密接な連携、いわゆるGP連携の必要性を感じています。今後とも各方面のご協力をお願いしたいと思います。

院　長　**後藤　雅博**

医療法人恵生会　南浜病院　精神科救急病棟

所 在 地	新潟県新潟市北区島見町4540番地
設立主体	医療法人 恵生会
施設種別	病院（精神）

建築概要

工事種別	増築
敷地面積	27,789.33 ㎡
建築面積	1,151.82 ㎡
延床面積	3,300.43 ㎡
容積率	62.10 %
建蔽率	24.72 %
軒高	13.515 m
階高	4,000 m
構造	S造
階数	地上３階
病床数・定員数	60床

設備概要

空調設備	空調：外気処理空調機とパッケージエアコン（ビル用マルチエアコンディショナー方式）／換気：第２種、第３種方式，排煙設備は、自然排煙方式。
衛生設備	給水：上水と雑用水の２系統給水（井水利用）加圧給水方式／給湯：中央給湯方式／排水：(屋内)汚水・雑排水合流方式，（屋外）汚水・雨水分流方式，浄化槽有／ガス：都市ガス
電気設備	受電：屋内キュービクル方式，／設備容量：６５０ｋＶＡ／電灯：ＬＥＤ照明／放送：非常放送／呼出：ネットワーク対応型ナースコール／火災報知：ＧＲ型受信機，火災通報装置
搬送設備	寝台用エレベーター　１台

種　　別：精神科救急入院料病棟Ⅰ

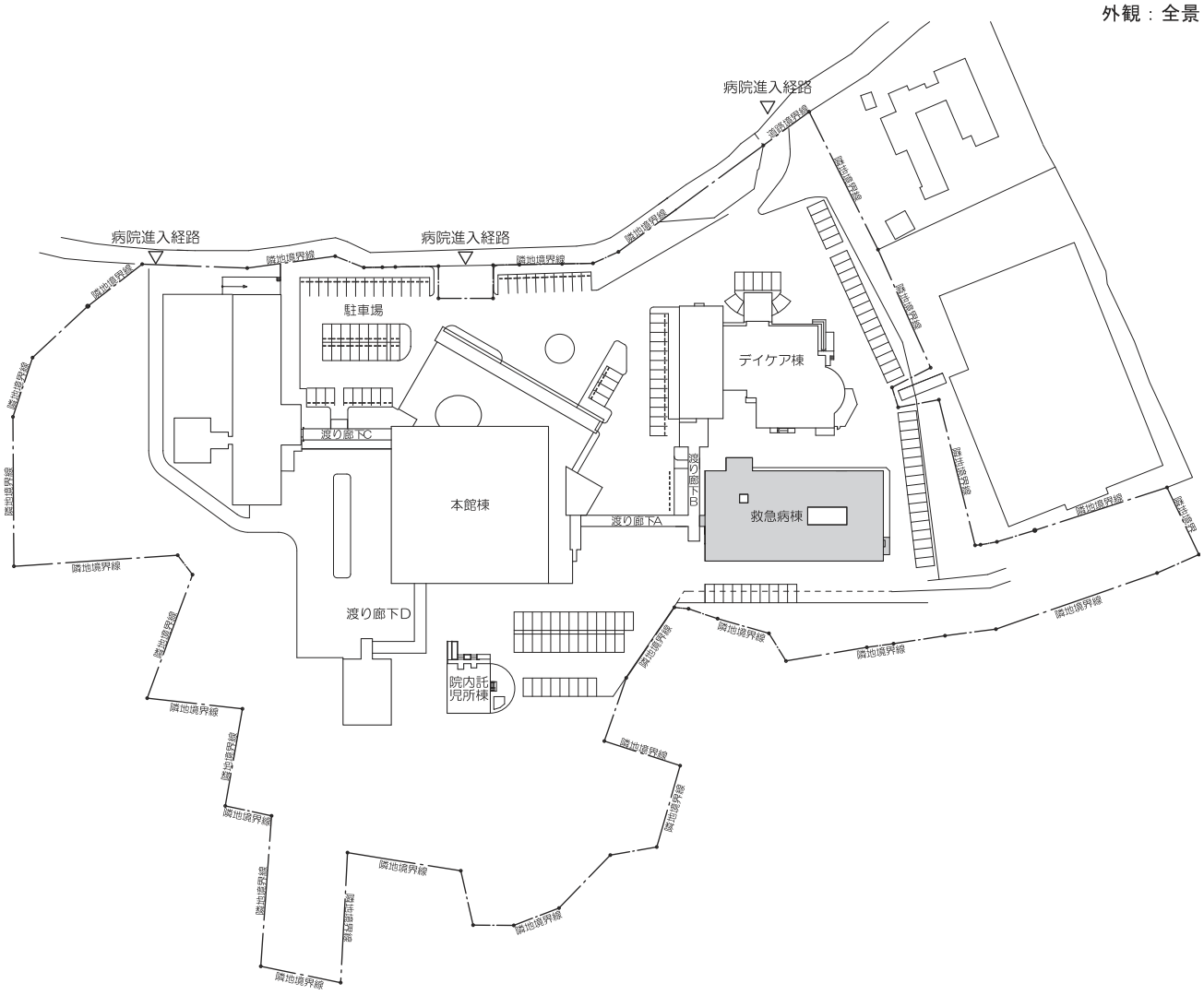
病　　床：１階　28室（床）（特別室１室、隔離室Ｓランクタイプ４室、Ａランクタイプ５室を含む）

　　２階　32室（床）（特別室１室を含む）

病棟機能：急性期・短期集中治療、心理社会療法プログラム、作業療法、園芸療法　など

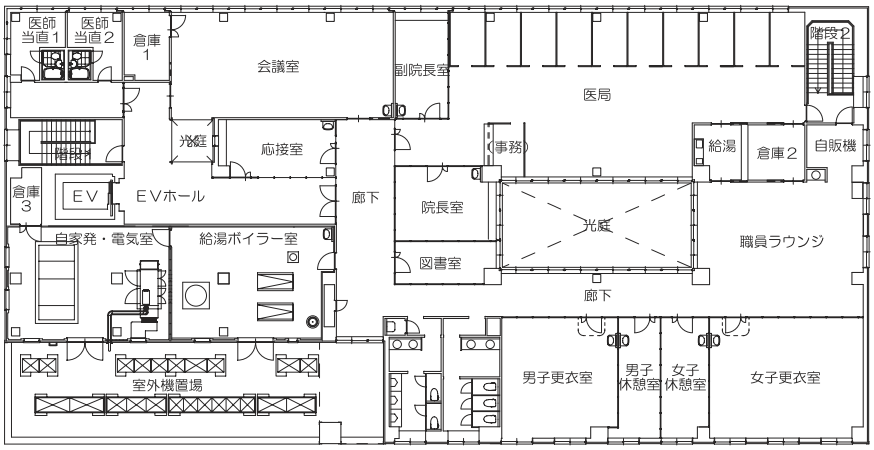
特　　徴：高規格の施設・人員基準により集中的な治療を行い、患者の速やかな症状の回復と退院後の支援体制整備を短期間内（約３ヵ月以内）で目指している。

外観：全景



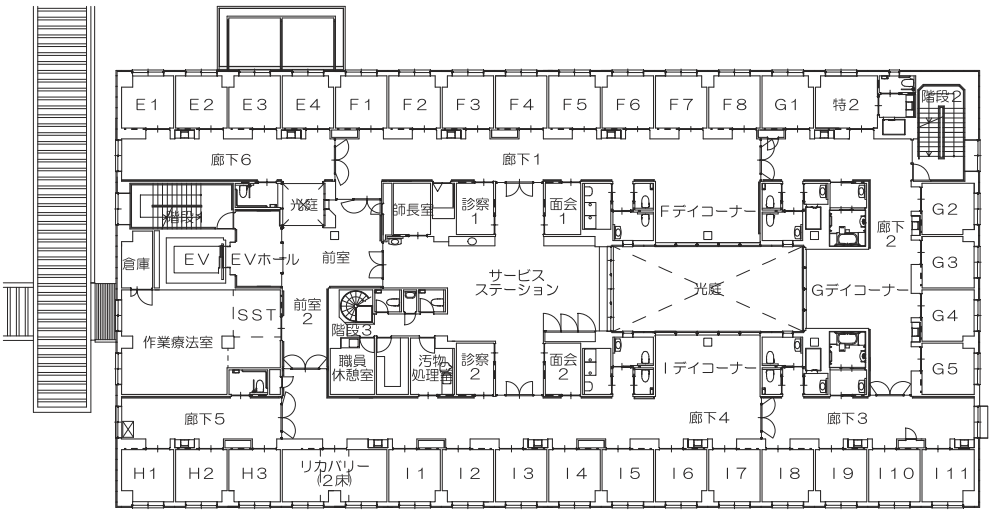
配置図　1:1800

N



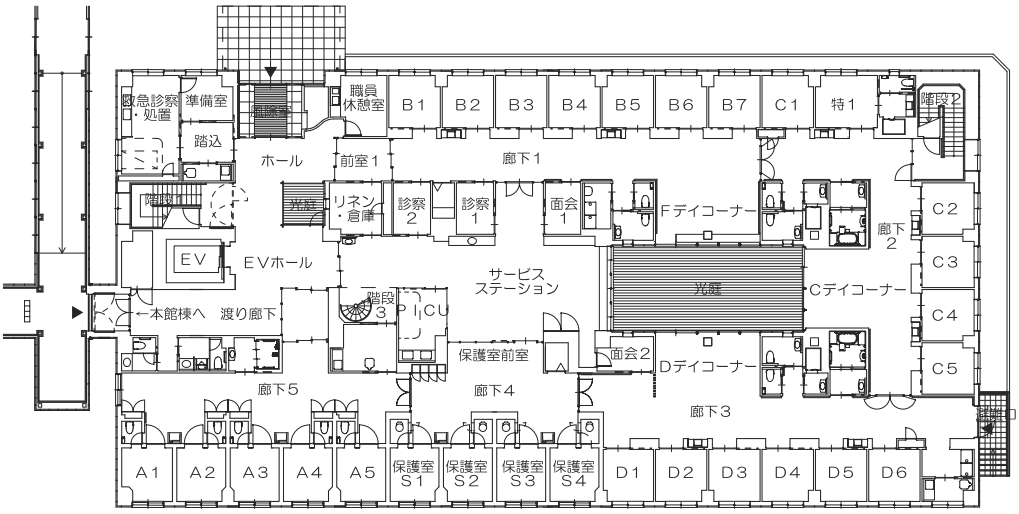
3階平面図　1:400

N



2階平面図　1:400

N



1階平面図　1:400

N

精神科救急病棟について

一昨年から計画していた待望の精神科救急病棟の建設が完了し、３月27日無事、引越しを終え、４月１日に本格稼働しました。精神科救急医療体制整備事業における基幹的役割を担いながら様々な施設基準をクリアし、新潟北圏域で初の精神科救急病棟ということで行政や医療機関など多方面から期待される施設と言えるでしょう。

地域社会で生活する精神科疾患罹患者または新規発症者にとっても救急医療の充実は待ち望まれていたことと思います。入院治療から退院後の在宅支援に至るまでの医療サービスの提供や調整を含め、急性症状を呈している治療を短期集中的に実施し、３ヶ月以内の退院を目標としています。

病棟の特徴

スタッフ構成は精神科指定医師４名、看護師35名、精神保健福祉士２名、看護補助員4名でプライマリーケア＋機能別看護体制を実践しています。

患者様に安心して療養できる治療環境を提供するため一般フロア49室はすべて個室で、他に特室２室保護室フロア９室、またＰＩＣＵ（精神科集中治療室）とリカバリー室を設けております。さらに症状別にエリアを区画できるようにパーテーションドアを設置し、うつ傾向の方や認知障害の方などを考慮した作りとなっています。その他、デイホール（６ヶ所）は談話スペースや食事処としても利用でき、吹き抜けの中庭に面した明るい開放的な寛ぎの空間となっています。

保護室フロアはスタッフステーションに隣接し、緊急時に速やかな対応ができるようにしています。また保護室専用のホールではテレビ視聴や寛ぎのスペースとして利用でき、拘禁反応の軽減や段階的な制限緩和としも利用しています。

構造上の工夫は他にもありますが、精神疾患・障害に起因する重大リスクを未然に防止すると同時に良質な医療を提供すること、ＡＤＬ面での維持などを考慮しています。

治療プログラムとしては医師・薬剤師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士など専門のスタッフによるチーム医療を提供し、ＳＳＴ（生活技能訓練）、心理教育、回想療法、各種作業療法、園芸療法など心理社会療法プログラムの実施や患者様とのミーティングを毎日実施し、より多くの患者様に安心・納得して治療を受けていただくよう努めております。これからも更に充実させ、精神科救急医療の担い手として 社会に貢献していきたいと思います。

精神科救急病棟　看護師長　**和気　一弘**

1階／ホール

光庭

1階／病棟廊下

1階／スタッフステーション

3階／ＥＶホール

1階／保護室前室

2階／デイコーナー

1階／保護室

2階／病室

3階／職員ラウンジ

スタッフステーション／螺旋階段

3階／医局

3階／応接室